

第 300 回 I E C 定例会 議事録

日時：2015 年 11 月 14 日（土）10:00-11:50

場所：園田学園女子大学開学 30 周年記念館 4 階情報教育センター

（情報コミュニケーション学会第 11 回情報教育合同研究会のワークショップとして開催）

出席：中村(民)、矢島、安谷、梶木、田中、中西、小嶋、広田、石川、山室、阿濱、江見、森本

欠席（届出有り）：中村(州)、米田、村田、西本、工藤、河野（午後の大会には出席）、高橋参（別 WS のため）、横山（別 WS のため）、石桁（別 WS のため）

招待講演：水野義之(京都女子大学)、中野健秀(愛知学院大学)

他に IEC 非会員 9 名が出席

ワークショップ「教育機関の災害への対応と情報教育の役割」

進行：矢島彰（大阪国際大学 IEC 代表幹事）

1. 背景：中西祥彦（兵庫県立宝塚高等学校 IEC 代表幹事）

300 記念研究会に震災をテーマとした経緯や思い出について語り、想定外の非日常的な事態を教訓とすることの重要性を伝えた。

2. 問題提起：江見圭司（京都情報大学院大学）

データのクラウド化、SNS での安否確認、OpenStreetMap 等を教育者としてどのように生徒・学生に伝えていくのかという問題提起がなされた。参加者は問題提起についての回答を配布した資料に記入した。

3.1 報告 1：水野義之（京都女子大学）

「教育機関の災害への対応と情報教育の役割～阪神・淡路大震災での ICT 活用と今後の課題について～」
阪神・淡路大震災で経験した、大学教員の情報ボランティア活動を振り返り、情報技術と社会の繋がりを実感したことの報告。災害後も理科等の教育内容が変化しないことは大問題であると指摘した。

3.2 報告 2：中野健秀（愛知学院大学）

「大学における事業継続計画(BCP)のあり方とその現状 -愛知学院大学を例に-」
事業継続の概念を大学に当てはめ、大学の対応状況や大学での BCP 構築は難易度が高いことを解説した。愛知学院大学では、周辺住民の避難場所として大学で備えがあるが、その実態を教員も学生も知らないことについて報告。

3.3 報告 3：田中規久男(大阪大学)

「災害と被害の情報学」
地震規模と被災状況のシミュレーションを情報教育で行うことについて報告。モデル構築から論理的に結果を導くことを重視し、理科とは異なる取組みが可能であることを指摘した。

4. まとめ：江見圭司（京都情報大学院大学）

3 件の報告を受けて、問題提起についての回答を参加者は配布資料に追記し、IEC 会員の分は回収した。1000 年に一度のことだから自分には関係ないという考え方に問題がある。それをどのように変えていくか、このワークショップを教育内容を変えていくきっかけとしていくこととして、閉会した。

以上